

平成18(2006)年度 財団法人横浜市青少年育成協会 事業報告

財団法人横浜市青少年育成協会の使命は「次代を担う青少年の主体性や創造性を育みつつ、心豊かな成長を図るため、市の施策と連携し、学校、地域や市民団体、企業等と協働し、諸事業を行い、もって青少年の育成に寄与する。」ことにあります。この使命を達成するため、青少年の自立と主体性を促す機会づくり、青少年が安心して心豊かに暮らせる環境づくり、青少年の活動を支援するための仕組みづくりの3つの基本的な視点に沿った事業を企画、実施しました。

事業の企画、実施にあたっては、地域や企業、市民などとの協働・連携を図りつつ市民ニーズを的確にとらえ、また協会が市民から親しまれる団体となるよう、様々な事業を通して協会の設置趣旨や事業の情報提供を行い協会のPRを行ないました。

平成18年度は指定管理者制度の導入に伴い、「横浜市青少年プラン」推進のための拠点施設として位置づけられた青少年施設（横浜市青少年育成センター、横浜市青少年交流センター、横浜市野島青少年研修センター、横浜こども科学館）の4施設について、指定管理者として1年目の管理運営業務を行い、利用者の満足度（目的達成率）の向上などに努めるとともに、各施設の特性を活かし、相乗効果を発揮した施設間の連携事業などを実施し、青少年指導者・育成者の支援や青少年育成などに取り組みました。

放課後キッズクラブ事業については、平成18年9月に新たに2校の放課後キッズクラブを開設し、合計で17校の運営を行いました。

平成18年度は、横浜市の「特定協約団体」への移行に伴い、協会の公益的使命を明らかにし、自ら目標設定することで、自主的な改革・経営改善を図り、団体としての自主・自立性を高めることを目的として、6項目の経営目標を掲げた「協約」を横浜市と締結し、効率的・効果的な協会経営に取り組みました。この取り組みに関して、横浜市では外部の学識経験者から構成される「横浜市特定協約団体経営評価委員会」を設置し、35団体を対象に専門的、客観的に評価を行いました。その評価において、協会は総合評価として「優良」という評価を獲得しました。

なお、協会の所管局は横浜市の局再編により、平成18年度からは、こども青少年局に代わりました。今後は青少年行政のより総合的な施策展開が期待されるとともに、今日の青少年の課題に応えるため、協会の新しい事業展開も求められています。若年無業者の保護者を対象とした講座の開催や学齢期児童の就労体験など、青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動を市内の若者自立支援の専門機関・関連団体と連携して実施していく予定です。

指定管理者としての効率的・効果的な管理・運営、また平成19年度から新たに締結した協約の目標達成などを着実に実現することなどにより、次代を担う青少年の主体性や創造性を育みつつ、心豊かな成長を支援するとともに、自立支援を推進します。



協会運営

1 理事会

回	開催日	主な内容
1	6月27日(火)	評議員の選任、平成17年度事業報告及び決算(案)、平成18年度補正予算(案)、監査報告等
2	平成19年3月26日(月)	評議員の選任、平成19年度事業計画(案)及び予算(案)等

2 評議員会

回	開催日	主な内容
1	6月27日(火)	理事の選任、平成17年度事業報告及び決算(案)、平成18年度補正予算(案)等
2	平成19年3月26日(月)	理事の選任、平成19年度事業計画(案)及び予算(案)等

3 会員の状況等

(1) 会員の状況

年度	総数	A 会員	B 会員	C 会員	D 会員
17	1,368件	914人	277件	96人	81件
18	1,295件	864人	262件	89人	80件

A 会員：個人(年会費3,000円) / B 会員：団体・法人(年会費5,000円) /

C 会員：個人(年会費1口5,000円以上) / D 会員：団体・法人(年会費1口10,000円以上)

(2) 会員交流会

ア 日 時：10月27日(金)

イ 場 所：横浜こども科学館

ウ 参加者数：46人

エ 内 容：協会事業などの取り組みや上半期の実績の報告、プラネタリウムの投影、協会の愛称・シンボルマーク発表、会員同士の交流

(3) 協会だよりの発行

ア 内 容：事業報告や各委員会活動等の状況などの情報提供

イ 発行月：5月、6月、9月、11月、平成19年1月、3月

4 ボランティア育成基金

「ボランティア育成基金」を適正に運営・管理するため、基金委員会を開催しました。

(1) 基金の状況

年 度	17	18
個人・団体・企業寄付	1,476,436円	1,362,377円
育 成 基 金 箱	389,285円	389,315円
「爆笑！濱っ子寄席」(寄付金)	1,163,909円	932,000円
カ ー ド 収 集	31,457円	19,348円
合 計	3,061,087円	2,703,040円

(2) 「爆笑！濱っ子寄席」等の基金募集事業の実施

基金募集のため「第46回爆笑！濱っ子寄席」や基金箱の設置等の事業を実施しました。また、青少年体験活動推進センターの運営や「学校教育と連携した地域人材の活用システム事業」など、基金の有効活用を図りました。(資料P17)

5 広報・情報提供活動

(1) 協会ホームページの充実

インターネット媒体を通して、団体の概要、協会事業および研修の案内、ボランティア活動等の情報を提供することにより、青少年活動、ボランティア活動希望者の支援および協会のPRを行いました。(資料P16)

(2) 情報紙の発行

ア 協会広報紙の発行

協会主催・共催事業、協会の管理・運営施設での事業等を広く提供する「はまユース情報」を発行し、事業参加者の増加を図るとともに、協会自体や、その取り組みについて広く市民に周知しました。(資料P12)

イ 青少年育成情報紙の発行

青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」を創刊し、青少年育成活動に従事している人や、これから取り組もうとしている人に対しても、協会が取り組んでいる活動や考え方を伝えるとともに、青少年育成活動の情報を発信し、活動の活性化を促進しました。(資料P12)

ウ 科学情報紙の発行

科学情報紙「科学館ニュース」の発行や科学館事業案内などで、来館者に有益な情報を提供しました。(資料P31)

6 協会の「愛称・シンボルマーク」の募集・決定

協会の「愛称・シンボルマーク」の募集を行いました。市外からも多くの作品が寄せられ、9月20日（水）の「愛称・シンボルマーク選定委員会」で検討の結果、愛称とシンボルマークを決定しました。（資料P12）

7 組織・人事給与検討委員会の設置、開催

協会を取り巻く環境の変化や、協会の現状を踏まえて、より自主性の高い組織をめざし、職員の意欲を引き出す人事・組織制度の導入を進めるため、外部の専門家を中心とした組織・人事給与検討委員会を設置、開催し「提言」をいただきました。今後はこの「提言」をもとに、組織、人事制度、給与などに関して着手できる改革を実施すると共に、さらに具体策について検討を行います。

（1）開催回数：10月31日（火）から平成19年2月5日（月）まで4回

（2）内 容：「現状および検討課題の整理」、「組織業務体制等」、「人事給与制度等に関する検討内容」、「人事給与制度等に関する提言内容」

8 事業評価委員会の設置、開催

協会の事業内容及びその運営方法について、青少年育成に理解のある第三者により評価・検証を行うことで、本来の役割や使命を果せる協会づくりをめざすため、事業評価委員会を設置、開催しました。

（1）開催回数：平成19年2月1日（木）から3月8日（木）まで2回

（2）内 容：協会事業に対する感想、意見について、事業評価の視点について 他

協会の主な事業

1 海・ふれあい・体験事業

学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力をしながら新しいチャレンジをしていくなかで、協調性や社会性を育み、また、日常とは異なる視点から、横浜の海や自然にふれることで、自分の住む“まち”を再認識する事業を実施しました。さらに参加者を支援する青年サポーターを養成し、ボランティア活動をはじめとした社会参加のきっかけとなる支援を行いました。協会本部および各施設が連携する、施設連携事業として実施しました。（資料P11）

小学生コース：150人 中学生コース：73人 サポーター：38人 参加者数合計261人

2 子どもの遊びサポート事業

プレイパークをはじめとする、集団遊びや異年齢間の交流、自然とのふれあいなどを通して子どもの自主性や創造性を育てていく“遊びの場”ボランティアを育成しました。

（資料P11）

参加者数：育成研修51人（延べ127人）ステップアップ研修11人

3 青少年体験活動充実に関する事業

ボランティア活動をはじめ、自然、就業、科学などの体験活動・学習についての相談・コーディネート、活動情報の収集・情報提供を通じて青少年にかかわるボランティアの裾野を広げることを目的として、「青少年体験活動推進センター」の運営を行いました。

今年度は、神奈川県教育委員会と協働で「高校生ボランティアエアポート」事業の一環として高校生対象の体験活動を実施するとともに、高校生のボランティア活動の窓口機能を強化しました。
(資料P12)

4 学校教育と連携した地域人材の活用システムの事業の推進

学校が地域の人材を積極的に活用することで、子ども達が学校生活や地域生活の中で様々な学習や体験ができるよう支援することを目的に、地域人材の活用システムをモデル校での実践を通じて構築するため、学校地域人材システム委員会等で検討を進めました。

またモデル校における実践として、横浜市立十日市場中学校において地域交流事業を実施するとともに、他の学校への普及を図るために、この実践の成果のPRを横浜市教育委員会や横浜市立中学校長会等に行いました。

(1) 参加者数合計：延べ57人(十日市場中学校生徒41人 地域の方16人)

(2) 協力団体：5団体

(資料P13)

5 ニート・フリーター対策への取り組み

横浜市が主催する「横浜市青少年自立支援研究会」に委員および、ワーキングメンバーとして参加し、若年無業者や社会的引きこもり等への支援に対する課題や取り組み例に関して意見交換や提案を行いました。平成19年3月には横浜市から「横浜市青少年自立支援研究会提言」が発表されました。
(資料P14)

6 野島クリスマスキャンプ(共催)

横浜市立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒の交流・集団活動の体験の場として、また、青年ボランティアの活動の場として野島クリスマスキャンプを実行委員会と共催で実施しました。
(資料P14)

参加者数合計160人(ボランティア等を含む)

7 不登校・ひきこもり支援団体、組織との協働事業(共催)

横浜市教育委員会が行う適応指導教室「ハートフルスペース」(不登校、ひきこもり児童生徒の個別、集団による生活指導)の場として、横浜市青少年交流センターを提供しました。また、宿泊事業を横浜市教育委員会と共催で実施し、青年ボランティアを導入した集団生活の支援を行いました。
(資料P15)

参加者数合計90人(ボランティア職員等を含む)

8 横浜災害ボランティアネットワーク会議への参加・支援

災害時にボランティア活動が効果的に行えるよう、市内のボランティア推進機関や団体との連携を強化するために、ネットワーク会議の活動に参加するとともに、事務局としての役割を担いました。結果、区ネットワーク組織が新たに6区で立ち上がりました。

(資料P16)

9 ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル 2006

高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進するため、運営支援団体の一員として実施しました。

(資料P15)

10 PTA新聞作り講習会

PTA広報紙に必要な新聞づくりの基本について、講習と演習、作品コンクール等を行いました。なお、会員は参加費を割り引くことで、会員の拡大を図りました。

(資料P15)

11 共催・後援事業等

この他様々な事業を、協会の共催・後援事業として、他団体や関係機関と協働して実施しました。また、他団体の事業に協力しました。

(資料P14,17 他)

施設の管理・運営、施設の主な事業

1 施設の管理・運営

横浜市の青少年4施設について、指定管理者として、それぞれの特性を踏まえた施設運営を行いました。また、4施設における事業の相互連携を図り、効率的・効果的な青少年育成事業を実施し、利用者増と利用者の満足度向上に努めると同時に、安全・安心・安定性を確保する維持・管理を行いました。

(1) 横浜市青少年育成センター

青少年を理解し青少年育成に共に取り組む核となる指導者、育成者を養成、NPOなど青少年育成団体への支援を通して青少年育成に取り組む主体を育む事業を行いました。

ボランティア情報スポットを設置し、その充実を図るとともに、センター利用件数および利用料金収入の増加、利用率の向上に努めました。

(資料P18)

協約における利用件数目標数値(スタジオを除く):2,100件/年 実績:2,243件/年

達成率:107% 昨年比:109%

(2) 横浜市青少年交流センター

青少年が安心して気軽にくつろげる居場所の拠点施設として、青少年が様々な人々と交流し、自立性や社会性を育む場を提供しました。また、市内に青少年の居場所機能を

持つ場所や活動が広がっていくための取り組みを行いました。 (資料P20)

ロビーワーク()の充実や、できるだけ制限を設けない会議室、スタジオの貸出、地域との交流事業などにより、施設の活性化を行いました。また、居場所機能に関するノウハウを関係施設、団体等に提供し、支援を行いました。

ロビーワーク：スタッフによるロビー（フリースペース）に集まる利用者たちとの関わり合いや、そこで行われる様々な事業を総称してロビーワークと呼んでいます。

協約における青少年利用者数目標数値：70,000人/年 実績：81,219人

達成率：116% 昨年比：121%

(3) 横浜市野島青少年研修センター

宿泊施設という特長を活かして、集団活動を通じた青少年育成を行いました。青少年指導者・育成者の研修活動支援と、提供プログラムの開発、施設環境の内容の充実などに取り組みました。また、平日の日帰り利用促進のためのプログラム提供や近隣の関係団体等へのPRを積極的に行い、利用件数や稼働率の増加を図りました。 (資料P25)

協約における利用件数目標数値：520件/年 実績：578件

達成率：111% 昨年比：112%

(4) 横浜こども科学館

青少年の科学に関する知識の啓発を図り、創造性豊かな青少年の育成に寄与するため、企画展、各種教室、イベント等を開催するとともに、展示室（特別展示、常設展示）および宇宙劇場の安定稼働に努めました。特に平成18年度宇宙劇場に導入した全天周デジタル映像投影装置()と国内最高性能を誇るプラネタリウム投影機を駆使した番組内容の充実を図り、入館者・入場者の増加に取り組みました。 (資料P28)

全天周デジタル映像投影装置

6台のビデオプロジェクターを使用し、プラネタリウムのドームスクリーンに、魚眼レンズで撮影されたような映像（静止画および動画）を映し出す装置です。これにより、観客は映像に包まれるような感覚を味わい、そのシーンの中に自分がいえるような臨場感を体験することができます。

協約における入館者数目標数値：300,000人/年 実績284,997人

達成率：95% 昨年比：100%

2 施設の利用状況

(1) 横浜市青少年育成センター

【開館日数・利用状況】

年度	開館日数	研修室		スタジオ 利用人数	印刷室 利用件数	物品貸出 利用件数
		利用団体	利用人数			
17	331日	2,053件	34,608人	4,046人	1,051件	351件
18	334日	2,243件	40,298人	5,107人	548件	228件

(2) 横浜市青少年交流センター

【開館日数・利用状況】

年度	開館 日数	利 用 状 況					
		青少年	1日平均	青少年以外	1日平均	総計	1日平均
17	347日	69,311人	200人	71,935人	207人	141,246人	407人
18	347日	81,219人	234人	72,203人	208人	153,422人	442人

(3) 横浜市野島青少年研修センター

【開館日数・利用状況】

年度	開館 日数	利用 日数	宿 泊		日 帰 り		合 計	
			団体	人数	団体	人数	団体	人数
17	347日	228日	405件	19,380人	110件	4,833人	515件	24,213人
18	347日	244日	419件	20,975人	159件	6,984人	578件	27,959人

(4) 横浜こども科学館管理

【開館日数・利用状況】

年度	開館日数	入館者数	1日平均 入館者数	宇宙劇場 入場者数	1日平均
17	327日	284,104人	869人	138,774人	424人
18	328日	284,997人	869人	129,793人	517人

宇宙劇場はリニューアル工事のため12月1日(金)から平成19年3月2日(金)まで休場しました。

3 施設の主な事業

(1) 横浜市青少年育成センター

ボランティア情報スポット

青少年指導者、育成者、NPO等を支援することで、地域での青少年活動の活性化を図っていくとともに、中間支援組織としての機能を発揮する取り組みを行っています。

青少年育成活動に関する情報収集・提供、相談、コーディネートや講座、研修会の開催、ネットワーク支援などを行いました。(資料P18)

(2) 横浜市青少年交流センター

ア 講座・研修会

青少年の自主的な活動を支援するため、スポーツ、クラフト、クッキング、音楽などの講座や研修会を開催しました。(資料P21)

イ 青少年交流事業

全館を利用し模擬店やゲームなどを行う大規模な「こどもの日まつり」や、季節を感じることができる「七夕飾りづくり」など、青少年が気軽に準備から運営まで参加できる事業を実施しました。また、日頃センターで利用者が遊んでいる種目の「スポーツ大会」などを行い、学校や年齢を超えた交流や仲間づくりの場を提供しました。(資料P23)

(3) 横浜市野島青少年研修センター

ア 講習会

青少年指導者、育成者等を対象に、野外活動、工作など青少年活動における指導のスキルの習得、向上を図る講習会を実施しました。(資料P26)

イ 野島ふれあいランド

施設と研修センターのノウハウを提供し、遊びを中心に地域の青少年の育成と異年齢間の交流を促進しました。(資料P25)

ウ 体験学習プログラム

横浜市内外の小学校4年生。を中心とした宿泊体験学習を促進するため、野島ならではの自然を活用したプログラムの開発・提供を行い、自然に対する興味、理解を深めると同時に、施設の利用を促進しました。(資料P26)

(4) 横浜こども科学館

ア 企画展

特別展示室を活用し、年間を通して企画展を3回実施しました。様々な角度から科学のふしぎ、おもしろさに触れてもらう機会を提供しました。(資料P30)

期間中入館者数 119,893人

イ 夏休み特別展

水を使った様々な展示物により水に親しんでもらう「水のひろば」を開催しました。 (資料P28)

期間中入館者数 79,158人

ウ 宇宙劇場リニューアル特別展

宇宙劇場のリニューアルを記念して「衝突」をテーマとした「大衝突展」を開催しました。 (資料P29)

期間中入館者数 29,603人

エ 各種教室・ワークショップ等

施設機能を生かし、ゴールデンウィーク・夏休み特別イベント、コンピュータ教室や実験工作教室、天体観望会、天文教室などの各種教室・ワークショップ・イベントを開催しました。 (資料P31)

21教室、82回開催、参加者数 合計6,204人

オ 地域子ども教室の開催等、地域との連携事業

地域や市民活動団体と連携し、青少年に科学への興味を呼び起こすための実験工作教室や自然観察教室等を実施しました。 (資料P31)

カ その他事業

科学体験活動インストラクター養成研修、サイエンスキャンプなどボランティア育成事業を行いました。 (資料P31)

放課後キッズクラブ運営事業

横浜市と連携を図りながら、「子どもたちの放課後懇話会」の提言を踏まえ、小学校施設を活用し、すべての子どもたちを視野に入れ「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを進めています。平成18年9月には新たに2校の「放課後キッズクラブ」が開設され、合計17校の「放課後キッズクラブ」を運営しました。 (資料P33)

【運営実績】(17校の集計)

在籍児童数	9,105人	17校の小学校の1年生から6年生の総数
登録児童数	4,905人	17校の放課後キッズクラブへ利用登録をしている児童数
参加児童数	275,547人	実際に17校の放課後キッズクラブを利用した児童数
開設日数	294日	平成18年度に放課後キッズクラブを開設した延べ日数 延べ4,746日(294日×15校+168日×2校)
1日平均利用児童数	58.1人	放課後キッズクラブの1日平均利用児童数

既存15校は1年間、新設の2校は9月からの7か月間の数値です。

放課後キッズクラブの規模により1日平均利用児童数は異なり、上記は17校の平均の数値です。

低学年のほうが、利用率が高い傾向にあります。

資料集

【事業報告】

資料

寄付行為第3条に定めた目的を達成するため、横浜市との連携のもと、青少年育成事業を企画・実施しました。また、様々な市民活動団体と協働しその活動を支援するとともに、青少年育成の総合推進を図りました。

【分類の凡例】

- A：青少年に体験機会を提供する
- B：情報提供により青少年をとりまく地域社会を育てる
- C：協働により青少年の育成主体を支援する
- D：財務・組織の基盤の充実

1 協会事業

事業名	分類
<p>(1) 海・ふれあい・体験事業</p> <p>ア 小学生コース・本研修 (ア) 日 時：8月7日(月)から8日(火) 1泊2日 (イ) 会 場：日本丸訓練センター、横浜市野島青少年研修センター 他 (ウ) 参加者数：150人、サポーター24人、合計174人 (エ) 内 容：天体望遠鏡づくり、日本丸海洋教室 他</p> <p>イ 中学生コース・本研修 (ア) 日 時：8月8日(火)から10日(木) 2泊3日 (イ) 会 場：横浜子ども科学館、横浜市野島青少年研修センター 他 (ウ) 参加者数：73人、サポーター14人、合計87人 (エ) 内 容：横浜子ども科学館見学、食事づくり、星空観察、日本丸海洋教室他 2コースともに募集定員を超える応募がありました。事業終了後、サポーターを中心とした参加者にボランティア活動を紹介し、継続的な支援を行っています。協会の事業に参加するなど新しい活動に積極的にチャレンジする様子が見られます。</p>	A
<p>(2) 子どもの遊びサポート事業</p> <p>プレイパークをはじめとする、集団遊びや異年齢間の交流、自然とのふれあいなどを通して子どもの自主性や創造性を育てていく”遊びの場”に関わるボランティアを育成しました。</p> <p>ア 開催日：育成研修9月30日(土)から10月29日(日) ステップアップ研修 12月10日(日)</p> <p>イ 内 容：「遊びのボランティア育成研修2006」を実施 *ステップアップ研修では、野外活動のスキルアップを研修</p> <p>ウ 参加者数：育成研修51人(延べ127人) ステップアップ研修11人</p> <p>エ 会 場：横浜市青少年育成センター、片倉うさぎ山プレイパーク、鯛ヶ崎公園プレイパーク 他</p> <p>特定非営利活動法人「横浜にプレイパークを創ろうネットワーク(YPCネット)」と協働して取り組みました。</p>	B

<p>(3) 青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」の発行</p>	<p>B</p>
<p>青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」を通じて、青少年育成活動に従事している人や、これから取り組もうとしている人に対しても、協会が取り組んでいる活動や考え方を伝えるとともに、青少年育成活動の情報を発信し活動の活性化を促進しました。</p> <p>ア 発行部数：10,000部（年4回 6月、10月、平成19年1月、3月）</p> <p>イ 配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内各郵便局、駅PRボックス等2,723か所</p> <p>ウ 主な内容：《特集》</p> <p style="padding-left: 40px;">青少年を見守る温かい目になろう / 学校と子どもを応援する地域の力 学校支援ボランティア / 青少年の力を借りて、青少年の居場所づくり-地区センターの取り組み / 赤ちゃん力 赤ちゃんに触れ合う 中で中高校生が獲得したこと</p> <p>青少年育成情報紙として青少年を取り巻く様々な課題を取り上げ、多くの市民や青少年指導者に情報提供を行いました。</p>	
<p>(4) 協会広報紙「はまユース情報」の発行</p>	<p>B</p>
<p>協会主催・共催事業、協会の管理・運営施設での事業等を広く周知することで事業参加者の増加を図るとともに、協会自体やその取り組みについて広く市民に周知しました。</p> <p>ア 発行部数：10,000部（年6回 5月、6月、9月、11月、平成19年1月、3月）</p> <p>イ 配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内各郵便局、駅PRボックス等2,723か所</p>	
<p>(5) 協会の「愛称・シンボルマーク」の募集・決定</p>	<p>D</p>
<p>平成17年度、協会設立1周年記念事業の一環として「愛称・シンボルマーク」の募集を行いました。公募期間を8月31日（木）まで延長しました。市外からも多くの作品が寄せられ、9月20日（水）の「愛称・シンボルマーク選定委員会」で検討の結果、愛称とシンボルマークを決定しました。</p> <p>応募数：「愛称」 ... 609点 「シンボルマーク」 ... 165点</p>	
<p>(6) 青少年体験活動充実に関する事業</p>	<p>A</p>
<p>青少年が自分にあった活動を見つけ、生き生きと活動できるよう、ボランティア活動や体験活動への参加を支援する「青少年体験活動推進センター」を青少年交流センター内で運営しています。</p> <p>内容：体験活動・学習相談・コーディネート等の事業の実施</p> <p>ア 小学校宿泊体験学習におけるボランティア紹介</p> <p style="padding-left: 40px;">ボランティアへの説明会：11回開催</p> <p style="padding-left: 40px;">参加者数：74人 依頼件数：90件 依頼人数：264人</p> <p style="padding-left: 40px;">紹介校数：36校 紹介人数：62人</p> <p>イ 他機関、団体とのネットワーク構築</p>	

<p>(ア) 横浜市市民活動支援センター：ボランティア情報掲示板 36件</p> <p>(イ) 神奈川県教育委員会の地域ボランティアエアポート 今年度、高校生のボランティア活動推進を目的に設置された、地域ボランティアエアポート16か所の一つとして高校生を対象としたボランティア活動コーディネート、活動体験事業を行いました。</p> <p>(ウ) その他 神奈川県ボランティア支援室サポート / 社団法人神奈川県青少年協会との連携事業「20歳のボランティアキャンペーン」 / 「こどもまつり2007」ボランティア相談コーナー 他</p> <p>ウ 高校生ボランティアアクト（高校生ボランティアエアポート事業） 高校生を対象にボランティア活動へのきっかけづくりを目指した事業を、高校生、大学生を中心とした実行委員会により企画・実施しました。</p> <p>(ア) 実行委員会（高校生6人、大学生5人）</p> <p>a 活動期間：10月から平成19年2月</p> <p>b 実施回数：19回 宿泊体験活動の企画・運営を通じ、仲間と活動することの楽しさを感じてもらい、併せてグループ活動のためのスキルを身につけることで、自主的な活動へのきっかけを作ることをねらいに活動しました。</p> <p>(イ) 宿泊体験活動「仲間づくりプロジェクト」</p> <p>a 日 時：12月26日（火）から27日（水） 1泊2日</p> <p>b 会 場：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>c 参加者数：22人（高校生17人、大学生5人）</p>	
<p>(7) 学校教育と連携した地域人材の活用システムの事業の推進</p> <p>学校が地域の人材を積極的に活用することで、子ども達が学校生活や地域生活の中で様々な学習や体験ができるよう支援することを目的に、地域人材の活用システムをモデル校での実践を通じて構築するため、学校地域人材システム委員会等で検討を進めました。またモデル校における実践として、横浜市立十日市場中学校において地域交流事業を実施するとともに、他の学校への普及を図るために、この実践の成果のPRを行いました。</p> <p>ア 地域交流事業</p> <p>(ア) 内 容：横浜市立十日市場中学校の生徒が地域の方と一緒に地域活動に参加することで、相互の「顔の見える関係」づくりを推進するため、地域活動への参加プログラムを夏と冬に実施しました。</p> <p>(イ) 開催回数</p> <p>夏の交流事業</p> <p>a オリエンテーション 8月19日（土）</p> <p>b 体験活動（5か所） 8月19日（土）から25日（金）</p>	C

<p>c 報告・交流会 8月26日(土) 十日市場中学校文化祭への参加 11月1日(水)・2日(木) ポプリ作り(協力:旧奥津邸活用実行委員会)と夏の交流事業の報告 冬のミニ交流事業</p> <p>a お楽しみ昼食会 12月18日(月) b 三保ねんじゅ坂プレイパーク 平成19年1月21日(日) c 新治市民の森 平成19年2月24日(土)</p> <p>(ウ)参加者数:夏の交流事業 3,635人 冬のミニ交流事業 22人</p> <p>イ 地域交流事業実行委員会</p> <p>(ア)委員会開催回数:6月13日(火)から11月24日(金)(4回)</p> <p>(イ)内 容:企画案の検討、体験活動先について、夏の交流事業の報告について、冬のミニ交流事業について 他</p>	
<p>(8)ニート・フリーター対策への取り組み</p>	A
<p>横浜市が主催する「横浜市青少年自立支援研究会」に委員および、ワーキングメンバーとして参加し、若年無業者や社会的引きこもり等への支援に対する課題や取り組み例に関して意見交換や提案を行いました。</p> <p>ア 研究会開催回数:4回</p> <p>イ 内容:(ア)6月8日(木)...研究会の進め方について (イ)7月20日(木)...実態調査について (ウ)8月30日(水)...アンケートの設問内容について・モデル事業について (エ)12月1日(金)...提言の中間取りまとめ案について (オ)3月8日(木)...研究会からの提言(案)</p>	
<p>(9)さわやかフレンドキャンプ(共催)</p>	A
<p>外国に関わりのある児童・生徒と日本人生徒との交流プログラムを、横浜青年国際人倶楽部(YICC)と共催で実施しました。</p> <p>ア 日時:10月7日(土)から8日(日)</p> <p>イ 会場:横浜市野島青少年研修センター</p> <p>ウ 参加者数:80人</p>	
<p>(10)野島クリスマスキャンプ(共催)</p>	A
<p>横浜市立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒の交流・集団活動の体験の場として、また、青年ボランティアの活動の場として野島クリスマスキャンプを実行委員会と共催で実施しました。</p> <p>ア 開催日:12月16日(土)から17日(日)</p> <p>イ 事前研修会:12月2日(土)</p> <p>ウ 会場:横浜市野島青少年研修センター</p>	

<p>エ 参加者数：160人（ボランティアを含む） オ 主催：野島クリスマスキャンプ実行委員会</p>	
<p>(11) 不登校・ひきこもり支援団体、組織との協働事業（共催）</p> <p>不登校の児童・生徒を対象とした宿泊事業を横浜市教育委員会と共催で実施し、青年ボランティアを導入した集団生活の支援を行いました。</p> <p>ア 開催日：11月20日（月）から21日（火） 1泊2日 ボランティア事前研修 10月17日（火）、11月14日（火）</p> <p>イ 参加者数：90人（当日参加小学生52人 ボランティア18人 職員・指導員20人）</p> <p>ウ 会場：横浜市野島青少年研修センター</p>	A
<p>(12) ヨコハマ・ハイスクール・ミュージックフェスティバル2006</p> <p>高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進するため、運営支援団体の一員として実施しました。</p> <p>ア 開催日：8月24日（木）</p> <p>イ 会場：横浜アリーナ</p> <p>ウ 入場者数：4,200人</p> <p>エ 高校生スタッフ：147人</p>	A
<p>(13) PTA新聞づくり講習会</p> <p>PTA広報紙に必要な新聞づくりの基本について講習と演習、添削教室、作品コンクール等を行いました。なお会員は参加費を割り引くことで会員の拡大を図りました。</p> <p>ア 新聞づくり講習会 （ア）開催日：5月25日（木）、5月29日（月）、6月6日（火） （イ）会場：ウィリング横浜、かながわ県民活動サポートセンター、横浜市青少年育成センター （ウ）参加者数：250人（82校、1団体）</p> <p>イ 新聞添削教室 （ア）開催日：9月26日（火）、11月29日（水） （イ）会場：横浜市青少年育成センター （ウ）参加者数：48人（17校）</p> <p>ウ 新聞づくりアドバイス講座・作品コンクール （ア）開催日：11月2日（木） （イ）会場：横浜市青少年育成センター （ウ）参加者数：58人（25校） （エ）作品応募数：48点（48校）</p>	B

<p>(14) 講師派遣</p> <p>ア 平成18年度依頼件数：24件 (横浜市体育協会、キリンビール株式会社、横浜市子育て支援事業本部ほか)</p> <p>イ 派遣職員：延べ49人</p> <p>ウ 主な内容：「ボランティア活動の基本的な心構え」「こどもログハウス新任スタッフ研修」「ボランティア活動体験」 他</p>	B
<p>(15) 横浜災害ボランティアネットワーク会議への参加・支援</p> <p>ア 総会 (ア)日 程：5月25日(木) (イ)会 場：横浜市青少年交流センター (ウ)参加者数：26人 オブザーバー：2人(横浜市市民活力推進局) (エ)交流会参加者：29人</p> <p>イ ニュースレターの発行：(7月、10月、12月、平成19年3月)</p> <p>ウ 横浜市、横浜災害ボランティアネットワーク会議との災害時における協議事項 横浜に大規模災害が発生した場合の対応について協議をしました。結果、1月に横浜市と「横浜市災害ボランティアセンター設置・運営等に関する協定書」を締結しました。</p> <p>エ 第1回 区ネットワーク連絡会について(報告) (ア)日 程：12月7日(木) (イ)会 場：横浜市青少年育成センター (ウ)参加者数：44人(スタッフ含め)</p> <p>オ 災害ボランティアコーディネーター研修会 (ア)日 程：平成19年1月21日(日) (イ)会 場：横浜市社会福祉協議会ボランティアセンター (ウ)参加者数：21人</p> <p>カ 区災害ボランティアネットワーク設立への支援 区災害ボランティアの設立に対して、講師の派遣、情報の提供などの支援事業を行いました。結果、以下のネットワークが新たに設立されました。 南区災害救援ボランティアネットワーク/とつか災害救援活動ネットワーク磯子 区災害ボランティアネットワーク/保土ヶ谷区災害ボランティアネットワーク/ 横浜栄・防災ボランティアネットワーク/瀬谷区災害ボランティアネットワーク</p>	C
<p>(16) 協会ホームページの充実</p> <p>インターネット媒体を通して、団体の概要、協会事業及び研修の案内、ボランティア活動等の情報を提供することにより、青少年活動、ボランティア活動希望者の支援</p>	B

及び協会のPRを行いました。なお、平成18年度については、デザインやコンテンツを一新し、内容の充実を図りました。	
(17) 爆笑！濱っ子寄席等の基金募集の事業実施（共催）	D
<p>ア 第46回爆笑！濱っ子寄席 (ア) 開催日：11月10日（金） (イ) 会 場：関内ホール (ウ) 出演者：古今亭八朝、三遊亭歌之介、柳家権太楼、桂春團治、 ルーフ広宣、いっこく堂 (エ) 入場者：767人 (オ) 共 催：社団法人横浜中法人会基金委員会や社団法人横浜中法人会、社団法人横浜青年会議所等の協力により、予想以上の収益をあげることができました。</p> <p>イ 基金募集 基金箱の設置のお願いや回収などを行いました。 基金箱の設置場所：58か所（77個）</p>	
(18) 基金委員会の運営	D
<p>ア 主な協議内容：「第46回爆笑！濱っ子寄席」について、来年度の基金運用事業の詳細について イ 開催回数：5月18日（木）から平成19年3月15日（木） 9回</p>	

2 横浜市青少年育成センター
主な事業

事業名	分類
(1) ボランティア情報スポット	B
<p>青少年指導者、育成者、NPO等を支援することで、地域での青少年活動の活性化を図っていくとともに、中間支援組織としての機能を発揮する取り組みを行っています。</p>	
<p>青少年育成活動に関する情報収集・提供、相談、コーディネートや講座、研修会の開催、ネットワーク支援などを行いました。</p>	
<p>ア 相談件数：119件（9月から平成19年3月）</p>	
<p>イ 青少年活動関連書籍の充実</p>	
<p>ウ 講座・研修</p>	C
<p>(ア) 救急法講習会（共催）</p>	
<p>a 開催日数：前期：6月10日（土）から18日（日）（4日間） 後期：11月11日（土）から19日（日）（4日間）</p>	
<p>b 参加者数：前期27人、後期44人</p>	
<p>c 運営：救急法講習運営会（受講者OBの会）と共催</p>	
<p>(イ) カウンセリング講習会（共催）</p>	
<p>a 開催日：火曜コース：11月14日から12月12日 日曜コース：11月26日から12月24日</p>	
<p>b 参加者数：火曜コース43人 日曜コース14人</p>	
<p>c 運営：横浜相談ボランティア研究会（受講者OB）と共催</p>	
<p>(ウ) “子どもと活動” 知っ得講座（NPOマネジメント講座）</p>	
<p>「『あぶないからダメ!』という前に～遊びと安全」</p>	
<p>a 開催日：平成19年2月28日（水）</p>	
<p>b 参加者数：57人</p>	
<p>c 協力：特定非営利活動法人りんぐりんく 青少年育成に関わる活動上の課題「リスクマネジメント」について学習する機会を提供しました。</p>	
<p>(エ) ボランティア入門講座 （子どもに関わるボランティアトーク・トーク・トークサロン）</p>	
<p>a 開催日：12月5日（火）、平成19年1月26日（金）、2月26日（月）</p>	
<p>b 参加者数：33人（3回）</p>	
<p>c 会場：横浜市青少年育成センター</p>	
<p>エ ネットワーク支援 こどもまつり2007（共催）</p>	
<p>県内の子どもに関わるNPOが活動紹介や子ども向けのゲーム、楽器演奏を行</p>	

<p>い、NPOの紹介ならびに団体同士の交流を深めました。</p> <p>(ア) 開催日：平成19年3月10日(土)</p> <p>(イ) 参加者数：約3,000人(ボランティア30人 参加団体 21団体)</p> <p>(ウ) 会場：日産スタジアム</p> <p>(エ) 特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンドとの協働</p>	
<p>(2) 研修室・スタジオ等の貸出し</p> <p>青少年指導者・育成者及び青少年の活動の場として、研修室、音楽スタジオ、和室を貸し出しました。</p> <p>ア 研修室利用団体数：2,243件</p> <p>イ 研修室利用人数：40,298人</p> <p>ウ スタジオ利用人数：5,107人</p>	B
<p>(3) 青少年活動団体の事務局支援機能</p> <p>団体が活動していくため、印刷機、コピー機の貸出、軽作業の場として活動支援室を提供しました。</p> <p>利用件数：548件</p>	B
<p>(4) 活動物品の貸出</p> <p>綿菓子機、ポップコーン機、着ぐるみなどの活動物品の貸し出しを行い、地域の青少年活動を支援しました。</p> <p>貸出し件数：228件</p>	B
<p>(5) 運営の検証と改善(利用者協議会)</p> <p>センター利用者、青少年育成活動者、協会職員等で構成する委員会において、施設としての役割を十分果たせるよう、機能の促進、取り組みの検証を行い、効率的・効果的な運営のための見直しを行いました。</p> <p>利用者協議会の設置・運営 第1回協議会 平成19年3月28日(水)</p>	B

3 横浜市青少年交流センター
主な事業

事業名	分類
<p>(1) 青少年委員会の運営</p> <p>青少年の声を施設運営に活かすとともに、中高生をはじめとした青少年自身の自主活動の中核を担ってもらうように委員会を設置しました。</p> <p>広報紙の発行など自主企画の定着を図るとともに、子どもを対象とした自主イベントを毎月開催しました。</p> <p>委員の構成：中学生から24歳までの青少年 11人</p> <p>ア 定例会：11回開催（広報紙づくり、イベント企画等の打合せ 他）</p> <p>イ 宿泊研修</p> <p>(ア) 第1回</p> <p>a 日 時：10月21日（土）から22日（日）</p> <p>b 場 所：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>c 内 容：ハロウィンイベント企画、グループワークトレーニング他</p> <p>(イ) 第2回</p> <p>a 日 時：平成19年3月23日（金）から24日（土）</p> <p>b 場 所：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>c 内 容：来年度の運営計画、青少年の理解 他</p> <p>ウ 広報紙の発行「君にふらっと」（100部発行）</p> <p>(ア) 第7号 8月1日（火）発行</p> <p>(イ) 第8号 12月20日（水）発行</p> <p>(ウ) 第9号 平成19年3月31日（土）発行</p> <p>エ 主催イベント</p> <p>(ア) 「きもだめし大会 交流の館」 8月26日（土）参加者数：192人</p> <p>(イ) 「子どもVSボランティア」（ボランティア交流会）8月27日（日） ボランティア及び青少年委員：24人</p> <p>(ウ) 「ふりふらDEハロウィン」 10月29日（日）参加者数：82人</p> <p>(エ) 「かどもっち〜」（冬休みイベント）12月23日（土祝）参加者数：149人</p> <p>(オ) 「ふりふらフレンドパーク」平成19年3月21日（水祝）参加者数：289人</p> <p>(カ) 定例イベント 「わいわいおやつタイム」（各回定員10名）</p> <p>a 開催回数：10回</p> <p>b 内 容：おやつづくり（対象：小学生）</p> <p>c 参加者数：延べ118人</p> <p>オ 他都市青少年との交流</p>	A

<p style="text-align: center;">杉並区立児童青少年センター（ゆう杉並）アクティブフェスタ視察 日 時：平成19年3月17日（土）</p> <p>カ その他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> （ア）こどもの日まつりスタッフ（5月） （イ）@楽祭運営補助（6月） （ウ）七夕まつり補助（7月） （エ）夏期ボランティア活動補助（8月） （オ）野毛山動物園ふらっとたんけん隊補助（12月、平成19年2月） （カ）よこはま・ゆめ・ファーマー文化祭運営補助（平成19年1月） 	
<p>（2）青少年の自主活動を支援する講座・講習会の開催（青少年パフォーマンス、クラフト教室、料理 教室 他）、親子・青少年の体験事業</p>	A
<p>青少年や保護者が興味を持つ講座・講習会を開催し、利用者同士の交流や仲間づくりを促進するとともに、各自の興味や関心が追求できるよう支援しました。</p> <p>ア 青少年パフォーマンス</p> <ul style="list-style-type: none"> （ア）「ふらっとライブ101」 <ul style="list-style-type: none"> a 開催回数：4回 b 内 容：バンド発表会 c 参加者数：512人 （イ）「青少年ライブ」 ふらっとライブ101の集大成として実施 <ul style="list-style-type: none"> a 日 時：平成19年3月25日（日） b 参加者数：206人 <p>イ けいじゅ先生のボーカルレッスン</p> <ul style="list-style-type: none"> （ア）日 時：平成19年2月1日（木）、8日（木）、15日（木）、3月13日（火）、22日（木） （イ）参加者数：39人 <p>ウ チャレンジ親子体験塾「クワガタ・カブトムシ研究会」</p> <ul style="list-style-type: none"> （ア）開催回数：4回 （イ）内 容：外国産・国産クワガタの飼育教室 （ウ）参加者数：延べ491人 <p>番外編「野外観察会」 夜の森でのカブトムシ・クワガタ観察会</p> <ul style="list-style-type: none"> （ア）日 時：7月30日（日） （イ）参加者数：44人 <p>エ クラフト教室 協力「青少年指導者クラブ」</p> <ul style="list-style-type: none"> （ア）開催回数：10日 	

<p>(イ)内 容：作って遊ぶクラフト作成 (ウ)参加者数：111人</p> <p>オ 茶道体験教室 利用団体の協力で実施(延べ16人のボランティアで運営) (ア)開催回数：2回 (イ)内 容：茶道体験 (ウ)参加者数：53人</p> <p>カ 夏休み事業</p> <p>(ア)木工教室：8月2日(水) 本立て、巣箱等作成 参加者数：8人 (イ)理科実験：8月4日(金) 水圧を利用した実験 参加者数：11人 (ウ)料理教室：8月21日(月) ピザづくり 参加者数：10人 (エ)茶道体験 8月23日(水) 茶道体験 参加者数：6人 (オ)クラフト 8月24日(木) 宿題になるクラフト 参加者数：18人</p> <p>キ こども会クラフト教室(地域連携事業) (ア)開催回数：3回 (イ)内 容：たわらころがし、バスケット、クリスマスクラフト (ウ)参加者数：205人</p> <p>ク ぞうりづくり (ア)日 時：10月29日(日) (イ)内 容：布片を編み草履を作る (ウ)参加者数：10人</p> <p>ケ ふらっと食育たいけん実習 (ア)開催回数：6回 (イ)内 容：保護者対象の食育講座 (ウ)参加者数：76人</p> <p>コ 野毛山動物園ふらっとたんけん隊(動物園との協働事業) (ア)開催回数：6回 (イ)内 容：園長によるレクチャー&ガイド (ウ)参加者数：148人</p>	
<p>(3)利用者同士の交流事業や成果発表会の開催(青少年ライブ、@楽祭 他)</p> <p>ア @楽祭 (ア) 開催回数：2回 (イ) 内 容：センター利用者の発表会 (ウ) 参加者数：243人</p> <p>イ 青少年ライブ</p>	A

<p style="text-align: center;">(2)-ア 青少年パフォーマンス「青少年ライブ」参照</p> <p>ウ スポーツ大会</p> <p>(ア) 夏休みスポーツ大会「ソフトバレーボール」 参加者数：6人</p> <p>(イ) 秋のスポーツ体験「パターゴルフ」 参加者数：38人</p> <p>(ウ) 3オン3バスケットボール大会 青少年利用者との協働企画 参加者数：25人</p> <p>(エ) 春の卓球大会 育成団体との連携事業 参加者数：25人</p> <p>エ 音楽コンサート 他</p> <p>(ア) ふりーふらっと音楽コンサート(協働事業)3回 参加者数：82人</p> <p>(イ) ふらっと朗読会(協働事業) 参加者数：18人</p> <p>(ウ) 親子ファミリーコンサート(協働事業) 参加者数：60人</p> <p>(エ) 馬頭琴コンサート スーホーの白い馬(連携事業) 参加者数：20人</p>	
<p>(4) 交流スペース等の自由利用スペースでの交流と自立の支援(ロビーワーク)</p> <p>ア こどもの日まつり</p> <p>(ア) 日 時：5月5日(金祝)</p> <p>(イ) 内 容：クラフト、お茶教室、アトラクション 他 参加者数：471人</p> <p>イ セタまつり</p> <p>ロビーに笹を置き、来館者が短冊を飾りました。 短冊数：316枚</p> <p>ウ ふらっとCAFÉ</p> <p>(ア) 「浴衣で花火大会に行こう！」</p> <p>a 開催回数：2回</p> <p>b 内 容：浴衣の着付け教室</p> <p>c 参加者数：15人</p> <p>(イ) 「召ませカフェ」</p> <p>a 開催回数：1回</p> <p>b 内 容：就労経験、浪人経験がある青年と受験生の交流</p> <p>c 参加者数：15人</p> <p>エ キレイにし隊</p> <p>(ア) 日 時：12月27日(水)</p> <p>(イ) 内 容：センターの大掃除</p> <p>フリースペースに来館した青少年に呼びかけ実施しました。</p>	A
<p>(5) 青年ボランティア養成講座</p> <p>交流スペース等での青少年の交流と自立を支援するため、高校生以上を対象に青年ボランティアを募集し、養成しました。</p>	A

<p>夏期青年ボランティア活動</p> <p>ア 活動期間：8月1日（火）から8月31日（木）</p> <p>イ 参加者数：43人（高校生～勤労青年）</p>	
<p>（6）スタッフ・スキルアップの研修</p> <p>青少年施設スタッフとして、常に課題意識を持ち、より専門的なスキルを身に付けるため、毎月1回開催するコーディネーター会議において、スタッフ全員で研修する機会を持ちました。</p> <p>ア 開催回数：12回</p> <p>イ 内 容：ロビーワークについて、フリースペース有効活用について 他</p>	A
<p>（7）運営委員会</p> <p>青少年指導者・育成者や利用者、近隣の学校関係者、学識経験者などで構成する運営委員会を設置し、意見等を施設運営に取り入れました。</p>	A
<p>（8）他団体後援・共催・協力事業</p> <p>ア 文部科学省地域こども教室「子やっしや鯛」（4月～平成19年3月）（後援）</p> <p>イ 神奈川県救護赤十字奉仕団横浜分隊「救急法講習会」（8月）（後援）</p> <p>ウ 音楽ボランティア一座にし「音楽ボランティア講座」（9月）（後援）</p> <p>エ 高校生ボランティアエアポート事業（6月～平成19年3月）（協力）</p> <p>オ 本町小学校キッズクラブ連携事業「もちつき・クラフト教室」（平成19年1月）（協力）</p> <p>カ 日本都市青年会議「若者の自立支援“青少年の居場所づくり”」フォーラム2007 （平成19年2月）（共催）</p> <p>キ よこはま・ゆめ・ファーマー10周年記念事業実行委員会、横浜市環境創造局との共催事業 「よこはま・ゆめ・ファーマー文化祭」（平成19年1月）（共催）</p>	C

4 横浜市野島青少年研修センター
主な事業

事業名	分類
(1) 野島ふれあいランド	A
<p>ア 野島ふれあいランド</p> <p>横浜市野島青少年研修センター及び野島公園において、世代を超えた人々があそびなどを通じて気軽に交流し、「居心地の良い場」(野島ふれあいランド)をつくれるよう、サポートしました。</p> <p>(ア)開催日：毎月1回開催(第4土曜日)(全12回)</p> <p>(イ)会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園</p> <p>(ウ)内容：たなばた会、ロケットGo!、クリスマスコンサート 他</p> <p>(エ)参加者数：延べ397人 活動ボランティア延べ45人 合計442人</p> <p>イ 特別企画「野島くわがたクラブ」</p> <p>オオクワガタを幼虫から成虫まで育てる共通の体験活動を通じて、生き物の命の大切さや参加者同士、親子のふれあいを深め、人や生き物とのふれあいの大切さを気づく機会をつくりました。</p> <p>(ア)開催日：9月3日(日)、12月3日(日)</p> <p>(イ)会場：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>(ウ)内容：オオクワガタえさ交換、飼育教室 他</p> <p>(エ)参加者数：38組 延べ175人 活動ボランティア延べ5人 合計180人</p> <p>ウ 特別企画「のじふれスペシャルキャンプ」</p> <p>親元を離れての宿泊体験を通じて、「自分のことは自分でできた」という自信をつける機会をつくりました。</p> <p>(ア)開催日：平成19年2月16日(金)から17日(土)</p> <p>(イ)会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園</p> <p>(ウ)内容：ところてんづくり、ナイトプログラム、のじまアドベンチャー他</p> <p>(エ)参加者数：10人 活動ボランティア3人 合計13人</p> <p>エ 特別企画「のじふれファミリーキャンプ」</p> <p>子ども同士でふれあえる機会、同じ子育て環境にある保護者が集う機会を設け、参加者の交流を図りながら横浜に残る自然や簡単なアウトドアにふれ、保護者と子どもと一緒に体験することで親子のスキンシップの機会を増やしました。</p> <p>(ア)開催日：平成19年3月3日(土)から4日(日)</p> <p>(イ)会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園</p> <p>(ウ)内容：はじめてのアウトドアチャレンジ、カリーづくり、ナイトプログラム、バードウォッチングin野島 他</p> <p>(エ)参加者数：12家族44人</p>	

<p>(2) スキルアップ講習会</p> <p>青少年活動におけるスキルの提供を通じて、横浜市野島青少年研修センターのPRを行い、利用の促進を図りました。</p> <p>ア 開催日：7月9日(日)、7月16日(日) 模型飛行機づくり 10月15日(日) 野外料理講習 12月10日(日)、12月17日(日) マジック講習</p> <p>イ 会場：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>ウ 参加者数：延べ59人</p>	A
<p>(3) 体験学習プログラム</p> <p>横浜市内外の小学校4年生を中心とした宿泊体験学習を促進するため、野島ならではの自然を活用したプログラムの開発・提供を行い、自然に対する興味、理解を深めると同時に、施設の利用を促進しました。</p> <p>ア プログラムの内容：横浜野島カー、のじぼっくり、のじたま君 他</p> <p>イ 参加者数：延べ1,457人(延べ19校)</p>	A
<p>(4) 金沢区災害ボランティアネットワークへの参加・支援</p> <p>金沢災害ボランティアネットワークの会員として活動に参加、支援しました。</p> <p>ア 開催日：定例会毎月第1金曜日(合計12回開催)</p> <p>イ 会場：いきいきセンター金沢 他</p> <p>ウ 内容：講演会、救急法講習会、合同防災訓練、防災シミュレーション 他</p>	C
<p>(5) 金沢水の日実行委員会への参加・支援</p> <p>地域の市民団体の活性化を図るとともに、金沢の水環境を青少年と共に考える場として、横浜市野島青少年研修センターで開催しました。</p> <p>ア 開催日：10月29日(日)</p> <p>イ 参加者数：450人(含む宿泊研修者)</p>	C
<p>(6) オールクリーン野島ビーチ(共催)</p> <p>横浜に唯一残る自然海岸である野島海岸の海浜清掃を、実行委員会と協働し実施しました。</p> <p>ア 主催：オールクリーン野島ビーチ実行委員会</p> <p>イ 開催日：5月28日(日)、8月27日(日)、11月25日(土)、 11月26日(日)、平成19年2月25日(日)</p> <p>ウ 会場：野島海岸</p> <p>エ 参加者数：延べ246人</p>	A

<p>(7) バードウォッチングin野島2007 (共催)</p> <p>バードウォッチングin野島実行委員会と共催し、野島に残された自然の中で「野島観察会」を行いました。</p> <p>ア 主催：バードウォッチングin野島実行委員会</p> <p>イ 開催日：平成19年3月3日(土)から4日(日)</p> <p>ウ 参加者数：76人(含む宿泊研修者)</p>	A																
<p>(8) 自然体験プログラムの研究、開発、相談、提供</p> <p>研修センター利用団体に対して自然体験プログラム等の開発・提供を行いました。</p> <table border="0"> <tr> <td>ア 「横濱野島カリー」</td> <td>参加者数：1,710人</td> </tr> <tr> <td>イ 「のじぼっくり」</td> <td>参加者数：617人</td> </tr> <tr> <td>ウ 「のじたま君」</td> <td>参加者数：326人</td> </tr> <tr> <td>エ 「ポップコーンクッカー」</td> <td>参加者数：9人</td> </tr> <tr> <td>オ レクリエーション指導</td> <td>参加者数：71人</td> </tr> <tr> <td>カ 海浜散策・工作</td> <td>参加者数：12人</td> </tr> <tr> <td>キ 聴診器づくり</td> <td>参加者数：40人</td> </tr> <tr> <td>ク 野外料理</td> <td>参加者数：100人</td> </tr> </table>	ア 「横濱野島カリー」	参加者数：1,710人	イ 「のじぼっくり」	参加者数：617人	ウ 「のじたま君」	参加者数：326人	エ 「ポップコーンクッカー」	参加者数：9人	オ レクリエーション指導	参加者数：71人	カ 海浜散策・工作	参加者数：12人	キ 聴診器づくり	参加者数：40人	ク 野外料理	参加者数：100人	A
ア 「横濱野島カリー」	参加者数：1,710人																
イ 「のじぼっくり」	参加者数：617人																
ウ 「のじたま君」	参加者数：326人																
エ 「ポップコーンクッカー」	参加者数：9人																
オ レクリエーション指導	参加者数：71人																
カ 海浜散策・工作	参加者数：12人																
キ 聴診器づくり	参加者数：40人																
ク 野外料理	参加者数：100人																
<p>(9) キッズクラブキャンプ</p> <p>放課後キッズクラブと協働で宿泊、日帰りキャンプを行い、集団生活を通じて参加者同士のふれあいを深め、自立心・協調性を深めました。</p> <p>ア 開催日：11月17日(金)から18日(土)太田小学校 平成19年3月9日(金)から10日(土)太田小学校、本町小学校 平成19年1月22日(月) 港南台第三小学校</p> <p>イ 参加者数：延べ151人 スタッフ26人 合計177人</p>	A																
<p>(10) 運営の検証と改善(アンケート調査)</p> <p>研修センター利用者に対してアンケート調査を実施し、その結果をサービスの向上や設備の改善に反映しました。</p>	A																
<p>(11) その他の共催事業</p> <p>「野島自然観察探見隊」事業への支援</p> <p>ア 「わくわくチャレンジキャンプ2006 in Nagano」</p> <p>イ 「ハイサイ クメキャンプ2006 in Okinawa」</p> <p>ウ 「どきどきスキーキャンプ2007 in Nagano」</p>	C																

5 横浜こども科学館

(1) 管理運営	A
<p>ア 展示室管理運営</p> <p>夏休み特別展の開催、各種科学実験ショウの実施、常設展示物の保守・改良を実施しました。また新たな展示物として「宇宙飛行士トライアル」、「重力ボールキャッチ」などを導入しました。</p>	

名 称	内 容	実施時期	人 数 等
夏休み特別展 「水のひろば」	水車や手押しポンプ、水時計などを展示し、様々な角度から人と水との関わりについて紹介しました。	7月16日(日) から8月31日(木)	開催日数： 46日 期間中入館者数： 79,158人
宇宙劇場リニューアル特別展「大衝突展」	宇宙劇場のリニューアルを記念して「衝突」をテーマとした「大衝突展」を開催しました。様々な衝突に関する現象の紹介や衝突に関する実験ショウなどを行いました。	平成19年3月3日(土) から3月31日(土)	開催日数： 28日 期間中入館者数： 29,603人
夏休み特別企画 「真夏のかがかん座」	プロのエンターティナーと科学館スタッフによるショウやミニ工作の実施。	8月1日(火) から8月31日(木)	開催日数： 31日 参加者数： 8,566人
クリスマス・サイエンスショウ「蜜ろうのキャンドルづくり」	炎の色の紹介と蜜ろうのシートを使ったキャンドルづくりの実施。	12月23日(土祝) から12月25日(月)	開催日数： 3日 参加者数： 189人
科学実験ショウ	サイエンスショウとミニ実験を毎日実施。	4月1日(土)から 平成19年3月31日(土)	サイエンス： 11演目 参加者数： 22,571人 ミニ実験： 8演目 参加者数： 15,750人

イ 宇宙劇場管理運営

プラネタリウム番組の制作、投影及び投影機器の保守管理を行ない、安定運営に努めました。特に平成18年度宇宙劇場に導入した全天周デジタル映像投影装置と国内最高性能を誇るプラネタリウム投影機を駆使した番組内容の充実を図り、入館者・入場者の増加に取り組みました。

(ア) 一般番組「火星への飛行」「世界の星空+(プラス)」

「COSMIC COLLISIONS ~宇宙大衝突」の投影

投影回数：延べ635回、入場者数54,257人

(イ) 「接近！ブラックホール」および「いま、地球がアツい！

~宇宙から見た地球温暖化~」の制作

(ウ) ちびっこ番組「ムーミン谷の物語~星と花のセレナーデ~」、

「おじゃる丸~まったりプラネタリウム~」、「まじめにふまじめかい

けつゾロリ~宇宙たんけん大さくせん~おうごんの星をさがせ！編~」

の投影

投影回数：延べ549回、入場者数53,737人

(エ) 学習番組「4年生向け学習プラネタリウム」の投影

投影回数：延べ131回、入場者数21,799人

(オ) 宇宙劇場リニューアル事業

プラネタリウムの補助投影機である「全天周デジタル映像投影装置」の導入に伴い、リニューアル記念事業として、記念式典および市民無料招待試写会を実施しました。

a 記念式典 平成19年3月1日(木)

参加者数 134人(来賓、招待者、関係者等)

b 市民無料招待試写会 平成19年3月2日(金) 214人(一般公募)

(カ) 宇宙劇場休場中の事業

宇宙劇場の機器更新中に5階キャプテンシアターにおいて月や太陽、星座等の解説を、映像を交えながら実施しました。また、1階エントランスホールでは3メートルのミニエアドームに簡易プラネタリウムを設置して星座を観望しました。

a 天文スペシャル「宇宙ミニシアター」の実施：

延べ81回 入場者数2,210人

b ミニミニプラネタリウムの実施：延べ75日 入場者数8,169人

c 太陽観望会の実施：延べ45回 参加者数 709人

ウ 運営の検証と改善

(ア) アンケート調査

来館者の要望や傾向を把握し、科学館運営に役立てるため、入館者の意識調

<p>査を実施しました。</p> <p>(イ) モニター評価</p> <p>公募、委嘱による9人の事業モニターに展示、プラネタリウム番組など9の分野について見学・体験をしていただき評価してもらいました。新たな展示・番組の提案、施設の改善提案などをいただきました。</p>	
<p>(2) 科学知識普及啓発事業</p> <p>青少年の創造性育成、体験の機会や場の提供をするための諸事業を実施しました。</p> <p>ア 企画展</p> <p>(ア) 「発見! かがみの城」</p> <p>a 内 容: 様々な鏡が集められた「かがみの城」を探検しながら、鏡の持つ不思議な性質を楽しく体験してもらいました。</p> <p>b 実施時期: 4月29日(日)から6月18日(月)</p> <p>c 開催日数: 50日間</p> <p>d 期間中入館者: 45,203人</p> <p>(イ) 「メビウスの卵展2006」～体験型の不思議実験室・ミラクルラボ～</p> <p>a 内 容: メビウスの卵展実行委員会との共催で鏡、音、光、磁石などのサイエンスアート系参加型展示物12点を展示するとともに、ワークショップを実施しました。</p> <p>b 実施期間: 9月17日(日)から10月22日(日)</p> <p>c 開催日数: 34日</p> <p>d 期間中入館者: 25,446人</p> <p>ワークショップ参加者数: 433人</p> <p>(ウ) 「なんでもアリーナ」</p> <p>a 内 容: 体験パネルとナノテクノロジー解説装置「ナノの冒険」による体験展コーナーを設置し、ナノの世界を楽しく紹介しました。</p> <p>b 開催時期: 11月2日(木)から平成19年2月12日(月)</p> <p>c 開催日数: 88日</p> <p>d 期間中入館者: 49,244人</p> <p>ワークショップ「ナノテク体験=スーパーボールづくり」参加者数: 104人</p> <p>イ ゴールデンウィーク・夏休みイベント</p> <p>(ア) 「サイエンスバザールG・W」</p> <p>a 内 容: 「スチロールメダルのキーホルダーを作ろう」</p> <p>b 開催日数: 4日</p> <p>c 参加者数: 781人</p>	<p>A</p>

<p>(イ) 「サイエンスバザール夏休み」</p> <p>a 内 容：「スライムを作ろう」</p> <p>b 開催日数：6日</p> <p>c 参加者数：2,643人</p> <p>ウ 各種教室</p> <p>(ア) コンピュータ教室：3教室 延べ 18日 30回実施 参加者数 434人</p> <p>(イ) 実験工作教室 : 2教室 延べ 6日 参加者数 63人</p> <p>(ウ) 体験スタジオ : 9教室 延べ 31日 参加者数 1,881人</p> <p>(エ) 天文教室 : 2教室 延べ 9日 参加者数 172人</p> <p>(オ) 観望会 : 6コース延べ 8日 参加者数 230人</p> <p>エ その他主な事業</p> <p>(ア) 広報・情報：科学館ニュース(2回)、事業案内(6回)の発行</p> <p>(イ) 講演会：「天体衝突～恐竜を滅ぼした星～」の実施 参加者数246人</p> <p>(ウ) ボランティア育成：a 体験活動インストラクター養成研修 26人</p> <p>b サイエンスキャンプ：156人</p> <p>c 登録ボランティア： 21人</p> <p>d 事業ボランティア： 106人</p> <p>e 天文ボランティア： 27人</p> <p>(エ) 地域子ども教室：地域やNPO団体等と協働して実施しました。</p> <p>27回 延べ557人 メンバー登録者数144人 (天文事業、講演会を除く)</p> <p>オ 収益事業</p> <p>駐車場及び売店の運営：乗用車20,420台 バス107台</p>	D
--	---

6 各施設が一体となって取り組む事業

事業名	分類
<p>(1) 施設連携事業等</p> <p>各施設の特性を活かし、相乗効果を発揮した施設間の連携事業などを実施し、青少年指導者・育成者の支援や青少年育成などに取り組みました。</p> <p>ア 海・ふれあい・体験事業 協会事業(1)参照</p> <p>イ よこはま・ゆめ・ファーマー文化祭(よこはま・ゆめ・ファーマー10周年記念事業実行委員会、横浜市環境創造局との共催事業)</p> <p>(ア)日 時:平成19年1月20日(土)</p> <p>(イ)場 所:横浜市青少年交流センター 参加者数:198名</p> <p>(ウ)内 容:よこはま・ゆめ・ファーマーの設立10周年を記念し、その活動を青少年をはじめとした多くの市民に伝えるために文化祭を実施しました。</p>	
<p>(2) ボランティア活動の場の提供</p> <p>青少年4施設でボランティア体験ができるよう、運営や事業実施方法を工夫し、ボランティア活動の場の提供やボランティアの育成を行いました。</p> <p>4施設でのボランティアの参加者数:延べ864人</p>	A
<p>(3) 青少年が直接体験するための事業の企画運営への青少年の参画推進</p> <p>「海・ふれあい・体験プログラム」、「サイエンスキャンプ」などの事業の企画運営に青少年が参画できる仕組みを作ることにより、ボランティア体験活動の機会を提供しました。</p>	A
<p>(4) ホームページによる情報提供</p> <p>青少年4施設で実施する様々な事業の案内、ボランティア活動等の情報を協会本部と連携して提供しました。</p> <p>ア 協会の概要(概要、設立趣意書、事業計画、事業報告、予算、決算等)</p> <p>イ 各施設に関する情報</p> <p>ウ 事業に関する情報</p> <p>エ ボランティア活動情報</p> <p>オ ボランティア情報スポットに関する情報</p> <p>カ 青少年体験活動推進センターに関する情報</p> <p>キ 宇宙・天文ニュース 他</p>	B
<p>(5) 企業協力の獲得</p> <p>自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うために企業協賛の獲得に努めました。</p> <p>(青少年育成情報紙、協会広報紙、科学情報紙等への広告の掲載、こども科学館宇宙劇場の投影番組における広告の上映等)</p>	D

7 放課後キッズクラブ事業

(1) 放課後キッズクラブの運営

ア 開設状況について

17校の放課後キッズクラブでは在籍児童の約2人に1人が登録しました。

この1年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,420人、総計275,547人が利用し、各放課後キッズクラブで実施したプログラム数は毎月平均約20回、年間総計3,905回でした。

《平成17年度までの開設》15校

区名	学校名	在籍人数	登録人数	参加者数	プログラム実施数	特色ある主なプログラム内容
南区	太田小学校	355	235	19,904	282	壁画づくり/合気道/料理会/音楽会/手芸/木工/ペットボトル工作/万華鏡/切り絵/読み聞かせ等
港南区	港南台第三小学校	336	197	15,382	310	スポーツチャンバラ/科学実験/将棋/ダンス/木工/ミュージカル/ボディー・パーカッション/工作等
旭区	笹野台小学校	583	367	19,632	290	科学実験/折り紙/壁アート/手芸/万華鏡/リサイクル工作/発明クラブ/木工/染め物/ミサガ作り等
金沢区	能見台小学校	619	273	19,589	230	テニス/英語でアート/科学実験/紙すき/キッズ縁日/トーンチャイム/工作/ダンス/手芸/紙芝居等
緑区	長津田小学校	422	245	12,191	216	昔遊び/日本舞踊/楽器作り/科学実験/読み聞かせ/英語で遊ぼう/昔遊び/手話ソング/囲碁等
都筑区	折本小学校	597	283	14,418	183	横断幕づくり/将棋/科学工作/ジャンピング・クラブ/キャンドル作り/フラダンス/紙すき/和太鼓等
戸塚区	秋葉小学校	622	355	21,829	228	昔遊び/カブラ/中学生と遊ぼう/木工/ドミノ倒し/キッズ・ミュージック/万華鏡/指編み/カルタ作り等
瀬谷区	南瀬谷小学校	912	438	22,287	270	木工/英語でバスケット/竹細工/ジャンピング・クラブ/科学実験/組み紐/日本の遊び/万華鏡/農園等
鶴見区	寺尾小学校	645	308	11,127	216	壁画/布絵はがき/紙粘土/編物/合気道/口笛を吹こう/フリスビー/工作/アフリカの太鼓演奏/茶道等
西区	宮谷小学校	781	430	20,755	309	キッズ縁日/刺し子手芸/水墨画/紙芝居/Tシャツ作り/キャンドル作り/もちつき大会/ハンドベル等
中区	本町小学校	456	242	19,934	270	壁画アート/万華鏡/タイ国を知ろう/編物/羽子板作り/ヨガ教室/手芸/砂絵/駄菓子屋さんになろう等
磯子区	岡村小学校	440	236	17,580	202	昔遊び/シャボン玉/ゴルフ/竹馬/工作/手品教室/カレンダー作り/かるた大会/合気道/一輪車等
港北区	日吉南小学校	484	281	15,353	176	キッズ工房/スタンドグラス/みんなで歌おう/ピンゴ大会/凧づくり/人形劇/横浜FCと遊ぼう等
青葉区	すすき野小学校	390	282	13,346	187	勾玉づくり/空気鉄砲/リサイクル工房/紙飛行機/巨大迷路/ボルトガルを知ろう/火おこし/茶道等
栄区	桜井小学校	391	269	16,272	267	ミュージックベル/囲碁・将棋/手芸/ニュースポーツ教室/キャンプ企画/フラッグ・フットボール/工作等

《平成18年度新規開設》2校 7か月間

区名	学校名	在籍人数	登録人数	参加者数	プログラム実施数	特色ある主なプログラム内容
都筑区	荏田東第一小学校	451	196	5,875	148	プラ板工作/ソフトバレーボール/編み物/地域探検/フラッグ・フットボール/プレイパーク/スライム 等
戸塚区	名瀬小学校	621	268	10,073	121	折り紙/ドッジボール/昔遊び/散歩/カプラ/キッズ探検/読み聞かせ 等

イ 会議等の状況について

各放課後キッズクラブの運営に関わる評議会や保護者会を開催するとともに、各放課後キッズクラブ主任指導員および指導員の会議を定期的に行い、情報交換等を行いました。

事業名	分類
<p>(ア) 評議会の開催</p> <p>各区役所が総計21回の評議会を開催し、評議会委員による検証が行われました。 開催回数：平成17年度までに開設した放課後キッズクラブの15校は合計21回 平成18年度に新規開設した放課後キッズクラブの2校は開催していません。</p>	A
<p>(イ) 保護者会の開催</p> <p>各放課後キッズクラブが総計49回の保護者会を開催し、保護者からの意見や要望について聞く機会を設けました。 開催回数：平成17年度までに開設した放課後キッズクラブの15校は合計45回 平成18年度に新規開設した放課後キッズクラブの2校は合計4回</p>	A
<p>(ウ) 主任指導員会議の開催</p> <p>毎月上旬に15校(9月からは17校)の主任指導員を対象に、精算業務や事務連絡等を含めながら協会内各放課後キッズクラブ間での情報交換を行いました。 開催回数：12回</p>	A
<p>(エ) 指導員会議の開催</p> <p>15校(9月からは17校)の指導員を対象に、事務連絡や報告等を含めながら協会内各放課後キッズクラブ間での情報交換を行いました。 開催回数：4回 4月21日(金)、10月20日(金)、12月15日(金)、 平成19年2月23日(金)</p>	A

(2) 新規放課後キッズクラブ開設に向けた取り組み

平成18年度に協会が新規に開設した2校に対して、開設の準備を進めるとともに、他法人が運営するキッズの職員に対しても合同で研修を実施しました。

<p>ア 保護者説明会の開催 協会が運営する2校のみを対象としました。</p> <p>(ア) 第1回保護者説明会 a 開催：5月13日(土) 荏田東第一小学校 / 5月30日(火) 名瀬小学校 b 内容：放課後キッズクラブの概要説明について 他</p> <p>(イ) 第2回保護者説明会 a 開催：6月10日(土) 荏田東第一小学校 / 6月27日(火) 名瀬小学校 b 内容：登録手続きの詳細について 他</p> <p>(ウ) 第3回保護者説明会 a 開催：8月28日(月) 荏田東第一小学校 / 8月29日(火) 名瀬小学校 b 内容：スタッフ紹介および9月からの具体的なプログラム内容について 他</p>	<p>A</p>
<p>イ 新規採用職員の研修 他法人が運営する放課後キッズクラブの職員も対象としました。</p> <p>(ア) 9月開設校：9月1日(金)に開設した7校の常勤スタッフに対し、放課後キッズクラブ運営に必要な基礎知識の理解や習得を目的として、新規採用主任指導員および指導員14人を対象に7月から8月の2か月間、児童心理等約20項目の研修や既設の放課後キッズクラブや養護学校等での実習を行いました。 また、新規採用の補助指導員にも、1日研修を2回実施しました。</p> <p>(イ) 3月開設校：平成19年3月1日(木)に開設した4校の常勤スタッフに対し、キッズクラブ運営に必要な基礎知識の理解や習得を目的として、新規採用主任指導員および指導員8人を対象に1~2月の2か月間、児童心理等約20項目の研修や既設の放課後キッズクラブや養護学校等での実習を行いました。 また、新規採用の補助指導員にも、1日研修を2回実施しました。</p>	<p>A</p>

(3) 全放課後キッズクラブを対象とした取り組み

平成18年度までに開設した全放課後キッズクラブ(30校)に対して、よりよい運営を進めるために、他法人間での情報交換が行えるよう11運営法人合同での連絡会の開催や、運営マニュアル等の作成および配布をしました。

<p>ア 放課後キッズクラブ主任指導員連絡会議の開催</p> <p>(ア) 第1回 連絡会議</p> <p>a 開催: 12月15日(金)</p> <p>b 参加: 26か所・9運営法人中、24か所・8運営法人が参加</p> <p>c 内容: 安全対策への取り組みについて(グループ討議) 他</p> <p>(イ) 第2回 連絡会議</p> <p>a 開催: 平成19年3月23日(金)</p> <p>b 参加: 30か所・11運営法人中、29か所・11運営法人が参加</p> <p>c 内容: 保護者への対応について(グループ討議) 他</p>	A
<p>イ 運営マニュアルの作成および配布</p> <p>(ア) 安全編</p> <p>横浜市内の各放課後キッズクラブでの安全管理と事故への対応に関して一定した対応がなされるようにするために、基本的な考え方や事務の流れ等について「マニュアル」を作成し、配布しました。</p> <p>9月発行(全体29頁綴り)</p> <p>(イ) 運営編</p> <p>横浜市内の各放課後キッズクラブの運営に関して、できるだけ一定した対応がなされるようにするために、基本的な考え方や事務の流れ等について「マニュアル」を作成し、配布しました。</p> <p>平成19年3月発行(全体86頁綴り)</p>	A
<p>ウ パンフレットの作成</p> <p>平成19年度に新設される各放課後キッズクラブの運営にあたり、放課後キッズクラブの趣旨等について理解を深めていただくために、既存のパンフレットの内容を修正し、新しいパンフレットを作成しました。(20,000部作成)</p>	A